

講義概要

— 2023 —



山口芸術短期大学
YAMAGUCHI COLLEGE OF ARTS

目 次

1. 芸術表現学科教養教育科目	6
2. 保育学科教養教育科目	16
3. 芸術表現学科専門教育科目	25
4. 保育学科専門教育科目	94
5. 専攻科デザイン専攻授業科目	160

シラバスの見方

山口芸術短期大学

シラバス（講義概要）：シラバスとは、授業に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等を記載しています。

科 目 名	① (単位)	②	③学科			④年 期		担 当 者	⑤		
ナンバリングコード	⑥										
卒 業 要 件	⑦	免許・資格との関係	保育士	⑧	幼稚園教諭	⑧					
教科及び教職に 関する科目	⑨										
各科目に含める ことが必要な事項	⑨										
教 科 目	⑨										
系 列	⑨										
授 業 テ ー マ	⑩										
授 業 概 要	⑪										
達 成 目 標	⑫						科目 DP(ディプロマ・ポリシー)：()				
							DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.										
	2.										
履修条件・注意事項	⑬										
授 業 計 画	⑭										
アクティブ・ラーニング	⑮										
成 績 評 価 基 準	⑯評価の方法： 評価の基準：										
フィードバックの方法	⑰										
時 間 外 の 学 習 に つ い て	⑱予習： 復習：										
教材にかかわる情報	⑲テキスト： 参考書： 参考資料：										
担当者からのメッセージ等 実務経験について	⑳										

- ①授業科目名と単位数を記載しています。
- ②授業形態を記載しています。 講義・演習・実技・実習等。
- ③学科・コース名を記載しています。
- ④開講期間と履修年次を記載しています。
- ⑤担当教員名を記載しています。
- ⑥科目ナンバリングコードを記載しています。詳細は「ナンバリングシステムについて」で確認してください。
- ⑦卒業資格を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- ⑧免許・資格（受験資格）を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- ⑨免許・資格（受験資格）を得るために必要な科目について必要事項・科目区分を記載しています。
- ⑩授業のねらいやテーマについて記載しています。
- ⑪授業のあらましを記載しています。
- ⑫達成目標について記載しています。達成目標とディプロマ・ポリシーの関りについて記載しています。
- ⑬履修する科目の順番や条件等注意事項を記載しています。授業の実施方法を記載しています。①面接授業のみ②面接授業と遠隔授業等の併用 ③遠隔授業等のみ
- ⑭授業スケジュール（各回で扱う内容等）を記載しています。
- ⑮主体的な学びを促進するために取り入れるアクティブ・ラーニングの、授業時間内で該当する学習形態について記載しています。
- ⑯成績の評価の方法と評価の基準を記載しています。
- ⑰課題等（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法について記載しています。
- ⑱担当教員より、この授業科目の予習・復習についてのアドバイスを示しています。
- ⑲教科書及び補助教材について記載しています。
- ⑳担当教員より学生に伝えたいメッセージ等を記載しています。
実務経験をいかした教育内容について記載しています。

教育課程ナンバリング・システムについて

山口芸術短期大学で開講されている全ての授業科目（教養教育科目・専門教育科目・専攻科開講科目）に対し、授業内容やレベル、更に免許・資格との関連性等に応じて特定の記号や数字を付与し、教育課程表やシラバスに記載することにより、体系的な教育プログラムの実現を目指すものです。

① AB	-	② C	-	③ 1 23	-	456
学科等領域コード		科目区分識別コード		科目水準コード 科目識別コード		免許・資格コード

【科目ナンバリングコード 表示例】

教養教育科目「郷土史」	JA-L101-000
-------------	-------------

【学科等領域コード】 (表①参照) 科目を提供する学科やコース等を2文字の英文字で表しています。

JA: 芸術表現学科及び専攻科

JC: 保育学科

【科目区分識別コード】 (表②参照) 教育課程の科目区分を1文字の英文字で表しています。

【科目水準コード】 (表③参照) 授業レベルを1桁の数字で表しています。

【科目識別コード】 (表④参照) 各科目を2桁の数字で表しています。

【免許・資格コード】 (表⑤参照) どの免許・資格に関する科目であるかを3桁の数字で表しています。

芸術表現学科および専攻科

①(学科等領域コード)	JA	芸術表現学科および専攻科	
②(科目区分識別コード)	L	教養教育科目	
	S	専門教育科目	
	F	付加科目	
③(科目水準コード)	1	1年次開講相当科目	
	2	2年次開講相当科目	
	3	専攻科開講相当科目	
④(科目識別コード)	教養教育科目	01～09	教養系科目
		11～19	英語
		21～29	体育
	専門教育科目	01～09	キャリア形成科目
		11～19	芸術表現科目
		21～39	デザインフィールド科目
		41～59	音楽フィールド科目
		61～79	情報・ビジネスフィールド科目
		81～99	総合研究科目
		000	該当なし

保育学科

①(学科等領域コード)	JC	保育学科	
②(科目区分識別コード)	L	教養教育科目	
	S	専門教育科目	
	F	付加科目	
③(科目水準コード)	1	1年次開講相当科目	
	2	2年次開講相当科目	
④(科目識別コード)	教養教育科目	01～09	教養系科目
		11～19	英語
		21～29	体育
	専門教育科目	01～19	保育・教育の意義・目的、基礎・本質関連科目
		21～29	教育・保育の対象理解と理論関連科目
		31～69	保育内容・保育方法・保育技術関連科目
		71～79	実習関連科目
		81～89	総合科目
		91～99	コース専門教養科目
		100	幼稚園免許
010	保育士資格		
110	幼稚園教諭・保育士両方		
011	保育士・リトミック両方		
001	リトミック		
⑤免許・資格コード	000	該当なし	

教養教育科目

芸術表現学科

郷土史	6
体育	7
文学	8
知的財産法入門	9
美術概論	10
現代社会考察	11
くらしと法	12
自然科学	13
英語コミュニケーションⅠ	14
英語コミュニケーションⅡ	15

保育学科

日本国憲法	16
情報処理	17
文書表現基礎	18
進路研究	19
英語コミュニケーション	20
体育（講義）	21
体育（実技）	22

科目名	郷土史 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 前期	担当者	尾崎 敬子(実務経験) (単独)	
ナンバリングコード	JA-L101-000						
卒業要件	必修						
授業テーマ	建学の精神「至誠」や松下村塾の教育への理解。本学で学ぶにあたっての動機づけ。 郷土の歴史や文化、自然などへの理解。修得した表現力を最大限駆使した発表。 文化財の価値の意識化。文化財の保護と活用を通しての、地域社会活性化に向けた参画意欲喚起。						
授業概要	建学の精神及び維新の起爆剤となった松下村塾について学ぶことを通じて、本学での学びの動機づけを行う。 山口県内の歴史や文化、自然などについて、文化財を中心に学び、地域の価値を再認識する。 各自「ふるさと探訪」のテーマを設定し、調査・研究を行い、伝わりやすい発表資料を作成する。 プレゼンを行い、相互評価することで、学び合う姿勢を身につける。 文化財などの地域資源を活用し、率先して地域活性化に貢献しようとする意欲を高める。						
達成目標	学修成果：教養、コミュニケーション能力、主体性、課題解決力					科目 DP : (2)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. 建学の精神「至誠」について理解し、本学で学ぶ意欲を高める。		◎	○			
	2. 山口県の歴史や文化について理解を深め、自らの言葉で語ることができる。			◎			
	3. 調査、研究の手法を学び、成果を資料にまとめて発信することができる。			◎	○		
4. 文化財を中心とした地域資源を生かして、地域の活性化に取り組む意欲を高める。		○			◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業の併用						
授業計画	1. 建学の精神と大学での学び(目標1) 2. 山口県の国宝(目標2) 3. 山口県の重要文化財Ⅰ(建造物)(目標2) 4. 山口県の重要文化財Ⅱ(絵画・彫刻・工芸品)(目標2) 5. 山口県の史跡・名勝(目標2) 6. 山口県の特別天然記念物(目標2) 7. 山口県の重要民俗文化財(目標2) 8. 山口県の重要伝統的建造物群保存地区(目標2) 9. 山口県の登録文化財(目標2) 10. ふるさと探訪Ⅰ(テーマ設定・情報収集)(目標3・4) 11. ふるさと探訪Ⅱ(調査・情報収集)(目標3・4) 12. ふるさと探訪Ⅲ(配付資料及びプレゼン資料の作成)(目標3・4) 13. 文化財の価値と活用Ⅰ(発表及び相互評価)(目標3・4) 14. 文化財の価値と活用Ⅱ(発表及び相互評価)(目標3・4) 15. 文化財の価値と活用Ⅲ(発表及び相互評価)、まとめ(目標3・4)						
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク、プレゼンテーション						
成績評価基準	①課題レポート(20%)：知識・理解及び思考・判断の測定 ②授業態度・授業への参加度(20%)：思考・判断及び態度の測定 ③調査研究・発表(40%)：関心・意欲及び技能・表現の測定 ④小テスト(20%)：知識・理解の測定						
フィードバックの方法	質問については適宜対応し、プレゼンは相互評価によりコメントを出し合うことで、長所や課題を認識して改善に繋げる。						
時間外の学習について	予習：各回のテーマについて事前に調べまとめておく。「ふるさと探訪」のテーマを決め、調査・研究に取り組む。各回90分程度 復習：ふるさと探訪の資料収集及び課題レポート 各回90分程度						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし(プリント配付) 参考書：山口県の歴史散歩(山川出版社)、山口県の歴史(山川出版社)、山口県文化財(山口県文化財愛護協会) 参考資料：山口県史及び各市町発刊の市・町史、文化財関連HP						
担当者からのメッセージ等実務経験について	高校教員(日本史)及び文化財専門員経験：文化財を通して郷土の価値に気づき、地域への理解と愛着が高まる話をします。 郷土に対する誇りと愛着を自分の言葉で表現できる地域住民として、地域社会活性化の意欲を高めていきましょう。						

科目名	体育 (1単位)	実技	芸術表現学科	2年 前期	担当者	原井 進 石川 美佳(実務経験) (複数)	
ナンバリングコード	JA-L205-000						
卒業要件	選択						
授業のテーマ	スポーツや表現活動を通じて、協調性やコミュニケーション能力を身に付ける。						
授業概要	本講義は、ダンス、球技、レクリエーション・スポーツを中心に運動する。 ダンスではストレッチやピラティスで体幹作りをしながら、表現力や美しい体のライン・踊る楽しさを学ぶ。 球技及びレクリエーション・スポーツでは、基礎技能の習得と簡易的なゲームを円滑に進められるように学習する。 合わせて、コミュニケーション活動を重視するとともに、事故や熱中症の防止等の基礎についても学習する。						
達成目標	学修成果：教養、主体性、変化への適応力			科目 DP : (2)			
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. 基本的なスポーツマナーとコミュニケーションを理解する(挨拶や基本的な社会性)		○	◎		○	
	2. ダンスの作品を通して仲間とコミュニケーションをとる			◎	○	○	
	3. 苦手なことでも最後まで諦めずに努力する			○		◎	
	4. ダンスの基本的な姿勢・技術を学び、音楽に合わせて、身体全体で表現する楽しさを知る				◎	○	
	5. 球技の特性の理解と技能			◎		○	
6. レクリエーション・スポーツの特性の理解と技能			◎		○		
履修条件・注意事項	激しい運動ができるTシャツ、ハーフパンツ、ジャージ、スウェット等の服装で参加すること。 タオル(汗拭きだけでなくピラティスでも使用する)、熱中症予防のための飲料水、着替え等を持参すること。 授業の実施方法：①面接授業のみ						
授業計画	1. スポーツをする上での身なりと基本的なスポーツマナー とコミュニケーション (目標 1) (担当：原井) 2. 基礎体力と筋力 up と体幹作り (ピラティス) 若者の姿勢改善政策*運動不足の生徒は筋力低下、体の左右バランスの改善 (目標 3) (担当：石川) 3. 柔軟性の向上(ピラティスと音楽に合わせたバレエストレッチなど) (目標 3,4) (担当：石川) 4. ピラティス & 創作ダンスに取り掛かる。(クラシックバレエやコンテンポラリーダンスなどの基本姿勢や動作を学ぶ & 美しい体作りとステップの練習) (目標 3,4) (担当：石川) 5. ピラティス & 創作ダンス 1 (目標 2,4) (担当：石川) 6. ピラティス & 創作ダンス 2 (目標 2,4) (担当：石川) 7. ピラティス & 創作ダンス 3 (目標 2,4) (担当：石川) 8. 作品完成発表 (目標 2,3,4) (担当：石川) 9. 球技の基礎技能(目標 5) (担当：原井) 10. 球技のゲーム 1 (目標 5) (担当：原井) 11. 球技のゲーム 2 (目標 5) (担当：原井) 12. レクリエーション・スポーツの基礎技能(目標 6) (担当：原井) 13. レクリエーション・スポーツのゲーム(目標 6) (担当：原井) 14. スポーツ大会の企画・運営 1 (目標 1,3,5,6) (担当：原井) 15. スポーツ大会の企画・運営 2 (目標 1,3,5,6) (担当：原井)						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ						
成績評価基準	①授業への参加(40%)：スポーツへの取り組みを重視する。 ②授業中の課題(40%)：グループ学習や授業中の課題解決への取り組み及びその到達度を評価する。 ③レポート(20%)：テーマに対する論述から授業内容の理解度を評価する。						
フィードバックの方法	授業中に前回学んだ技能を復習する時間を確保する。						
時間外の学習について	予習：ルール学習(各回45分程度) 復習：観る・する・調べるスポーツを楽しむ(各回45分程度)						
教材にかかわる情報	必要に応じて適宜配布						
担当者からのメッセージ等実務経験について	ストレッチやピラティスで基礎体力 UP。ダンスを通して体を使って表現する楽しさや自己アピール力を養って欲しい。実務経験(コンテンポラリーダンス教室の講師)をもとにピラティス、コンテンポラリーダンスについて授業をします。(石川) 体を動かすことの楽しさを味わうだけでなく、生涯にわたって運動に親しむための基礎を培うとともに、健康寿命の延伸に資する実践力を身につけてほしい。(原井)						

科目名	文学 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 後期	担当者	久保田 京子 (単独)
ナンバリングコード	JA-L202-000					
卒業要件	選択					
授業のテーマ	日本文学の概論、山口県ゆかりの文学者とその作品の知識、豊かな感性・心情の育成、文学的表現の理解					
授業概要	古典から近代までの文学について、「日本文学史」を概観することでその流れを学び、教養を身につける。さらに授業で培った知識や思考力をもって、山口県ゆかりの文学者の人と作品を調査研究し、その成果をレポートとして作成し、プレゼンテーションなどの演習を行う。					
達成目標	学修成果：教養、主体性、変化への適応力					科目 DP：(2)
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 日本文学の大きな流れと人口に膾炙した作品について学び、教養と知識を身につける。		○	◎		
	2. 主要な文学作品の鑑賞を通して、作品に込められた日本人の美意識や暮らし、創造的な表現等を学び、学習した内容をまとめることができる。		○	◎		
	3. 上代から現代にいたる、山口県に関連のある文学作品及び文学者の業績等について理解を深めることができる。				○	◎
	4. ふるさとの文学館・図書館等の文学資源を活用し、自らの課題を探究することができる。		○			◎
5. 課題研究の成果を効果的かつ創造的に発表・紹介することができる。			◎		○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ(状況により、遠隔授業を併用することもある)					
授業計画	<p>1. 日本文学史の概略・オリエンテーション(目標1、目標2)</p> <p>2. 「古事記」が生まれた時代と「古事記」にみる山口県(目標1～3)</p> <p>3. 「万葉集」の歌人たちと「万葉集」に詠まれた故郷(目標1～3)</p> <p>4. 「古今和歌集」と日本の四季(目標1～3)</p> <p>5. 「枕草子」に描かれた美意識(目標1～3)</p> <p>6. 中世説話集等に見られる日常の暮らし(目標1、目標2)</p> <p>7. 「松尾芭蕉」・「与謝蕪村」・「小林一茶」の俳諧のおもしろさ(目標1、目標2)</p> <p>8. 浄瑠璃と歌舞伎にみる伝統(目標1～3)</p> <p>9. ふるさとの文学者 ① 小説(宇野千代、嘉村礒多)(目標1、目標3)</p> <p>10. ふるさとの文学者 ② 詩(中原中也)(目標1、目標3)</p> <p>11. ふるさとの文学者 ③ 俳句(種田山頭火)(目標1、目標3)</p> <p>12. ふるさとの文学者 ④ 童謡(金子みすゞ、まどみちお)(目標1、目標3)</p> <p>13. ふるさとの文学者 ⑤ 文学者にとっての「ふるさと」(目標1、目標3)</p> <p>14. 山口県の文学者に関する課題研究と資料作成の基礎(目標3～5)</p> <p>15. 文学レポートのプレゼンテーション(目標3～5)</p> <p>※ 毎回、講義のはじめに、事前提出した「紹介したい文学作品(文学者)」を取り上げ、レポートした内容を発表し、プレゼンテーション力をつける。</p> <p>※ 「ふるさとの文学者」の冊子をつくる。</p> <p>※ 各自のテーマによるレポートを作成し、提出する。</p>					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、ロールプレイ					
成績評価基準	<p>①毎時レポート・提出物(20%)：課題に意欲的に取り組み、学習活動ができる。 *関心・意欲を測定</p> <p>②復習テスト(30%)：「日本文学史」の基礎知識が身につく、理解できている。 *知識・理解度を測定</p> <p>③文学レポート・発表(30%)：「ふるさとの文学(者)」について調査研究をし、地域の文化や文学作品についての自説をまとめた文章で表現できる。 *関心・意欲・表現を測定</p> <p>④授業態度・参加度(20%)：学習活動や発表に積極的かつ主体的に取り組むことができる。 *関心・意欲を測定</p>					
フィードバックの方法	個々の提出課題ごとに添削指導し、各自の課題や良さを伝え、課題研究やレポートに活用するように伝える。					
時間外の学習について	<p>予習：各回の課題について事前の「調べ学習」(含テキストの読解、文学館・図書館を活用した情報収集・研究(各回90分程度))</p> <p>復習：授業後の配布プリントのまとめ、代表作品の朗読、課題研究等(各回90分程度)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：「日本文学史」小西甚一著 講談社学術文庫</p> <p>参考書：</p> <p>参考資料：毎時、授業プリント配布</p>					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	日本文学やふるさとの文学の素晴らしさを学び、理解することで、暮らしの中における芸術表現を感得できる感性を磨こう。授業プリントはポートフォリオとして振り返りに活用すること。					

科目名	知的財産法入門 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 後期	担当者	長田 和美 (単独)
ナンバリングコード	JA-LI02-000					
卒業要件	必修					
授業のテーマ	知的財産、著作権、特許、意匠、商標					
授業概要	自己の作品の創作や他人の作品を利用する際には、自己の権利の把握と他者の権利を尊重することが求められます。本科目では、社会人として知っておくべき、意識しておくべき教養として「知的財産」の基礎について学びます。					
達成目標	学修成果：教養、主体性、変化への適応力				科目 DP : (2)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 知的財産の全体像、特に芸術に関連する知的財産権について理解する。			◎	○	
	2. 芸術を含めた社会活動全般における知的財産の価値を理解する。			◎	○	
	3. 創作者側と利用者側の両方の立場において知的財産権を意識し行動することができる。	○	◎	○	○	
	4. 芸術に関連するビジネスと知的財産権の関係性を理解する。			◎	○	
5. 産業財産権を主とした知財情報へのアクセスができる。			◎	○	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 知的財産の全体像 (目標1、2、3、4) 2. 著作権の基礎知識 (1) (目標1、2、3、4) 3. 著作権の基礎知識 (2) (目標1、2、3、4) 4. 著作権法に定められた権利 (1) (目標1、2、3、4) 5. 著作権法に定められた権利 (2) (目標1、2、3、4) 6. 著作権法の個別権利制限 (1) (目標1、2、3、4) 7. 著作権法の個別権利制限 (2) (目標1、2、3、4) 8. 著作権に関わる情報検索 (パソコン演習) (目標5) 9. 産業財産権の基礎知識-特許- (1) (目標1、2、3、4) 10. 産業財産権の基礎知識-特許- (2) (目標1、2、3、4) 11. デザインの保護-意匠- (目標1、2、3、4) 12. 特許・意匠に関わる情報検索 (パソコン演習) (目標5) 13. 商標の基礎知識 (1) (目標1、2、3、4) 14. 商標の基礎知識 (2) (目標1、2、3、4) 15. 意匠・商標に関わる情報検索 (パソコン演習) (目標5) ◎定期試験 (筆記、パソコン実技)					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション					
成績評価基準	①定期試験 (50%) : 知識・理解を測定 ②小レポート、ワークシート、宿題レポート (50%) : 思考・判断、関心・意欲を測定					
フィードバックの方法	宿題レポートについては、次の講義開始時に解答例を示し解説する。 小レポート等で質問があった際には講義時に回答する。					
時間外の学習について	予習：インターネットやテレビ、新聞等において知的財産に関するニュースや話題を確認する。(各回90分程度) 復習：教科書(授業で扱った範囲)を読み、宿題レポート、ワークシートに取り組む。(各回90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：「これからの知財入門 第4版」(ISBN978-4-296-20195-2)、日経BP社 参考書：特になし 参考資料等：特になし					
担当者からのメッセージ等 実務経験について						

科目名	美術概論 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 前期	担当者	武田 雅行 (単独)
ナンバリングコード	JA-L206-000					
卒業要件	選択					
授業のテーマ	美術史、鑑賞、表現方法、作家論、美的感性					
授業概要	優れた芸術に触れることは人間の精神をより一層豊かにしてくれる。この授業では、現代社会・文化の源流でもある古代美術から現代に至る西洋美術の歴史的な流れを中心に、様式、運動、主義、芸術概念など「美術の見方」について概説する。「美術は時代を映す鏡である」とも言われ、各時代の社会背景を踏まえた上で、作家や作品、技法の知識を得ることも視野に入れ、パワーポイント、DVD等の視聴覚機器を使用した美術鑑賞を中心に授業を展開する。					
達成目標	学修成果：教養、主体性、変化への適応力				科目 DP：(1)	
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. 西洋を中心とした美術の歴史の流れを理解できる。	◎		○		
	2. 芸術の様式・主義・運動とともに各時代の社会的背景を理解できる。	◎		○		
	3. 素晴らしい芸術作品に触れ、それらの作品や技法についての知識を習得する。	○		◎		
4. 学んだことをノートに記録して、美術作品への思いや、知識の定着を図ることができる。	○		◎			
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 導入 授業概要の説明 西洋美術の流れ 古代オリエント美術 (目標 1,2) 2. 美術史 エジプトの美術 (目標 1,2,3) 3. 美術史 ギリシャの芸術Ⅰ (目標 1,2,3) 4. 美術史 ギリシャの芸術Ⅰ (目標 1,2,3) 5. 美術史 ローマ・中世の美術 (目標 1,2,3) 6. 美術史 イタリア初期ルネッサンス (目標 1,2,3) 7. 美術史 イタリア盛期ルネッサンスⅠ (目標 1,2,3) 8. 美術史 イタリア盛期ルネッサンスⅡ (巨匠の時代) (目標 1,2,3) 9. 美術史 バロック・北方ルネッサンス (目標 1,2,3) 10. 美術史 ロココ (18世紀フランス) (目標 1,2,3) 11. 美術史 近代絵画 (新古典・ロマン・写実) (目標 1,2,3) 12. 美術史 近代絵画 (印象派) (目標 1,2,3) 13. 美術史 近代絵画 (後期印象派) (目標 1,2,3) 14. 美術史 現代の美術Ⅰ (セザンヌ以降) (目標 1,2,3) 15. 美術史 現代の美術Ⅱ (20世紀美術) (目標 1,2,3) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	評価の方法：期末試験 (配点 80%) ノート提出 (配点 20%) 評価の基準：学習内容の理解度と授業への取り組み (テキストおよび講義等での知識を扱った問題に解答できる)					
フィードバックの方法	試験終了後、答え合わせとともに、解説を行なう。					
時間外の学習について	予習：テキストを読んでおく。 復習：学んだ作家や作品について更に調べ、配布のプリントにまとめる。					
教材にかかわる情報	テキスト：『鑑賞のための西洋美術史入門』 著者：早坂優子 出版社：株式会社視覚デザイン研究所 参考書：授業の中で適宜資料を配布する。 参考資料等：					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	最終授業終了後、A4 ファイルにまとめたノートを提出。					

科目名	現代社会考察 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 前期	担当者	藤村 慎一郎 (単独)
ナンバリングコード	JA-L201-000					
卒業要件	選択					
授業のテーマ	SDGs (持続可能な開発目標) の17の目標のうちの4つの目標に関するテーマを設定して、「生命・地域・環境」の視点で科学的な課題解決について分析・考察する。					
授業概要	現代社会が抱える諸課題 (生命・地域・環境) についての課題解決に向けて、グループでテーマを選んで、解決に向けて協調学習 (グループワーク) を繰り返して成果発表をする。					
達成目標	学修成果：教養、主体性、専門分野の知識・技能、創造力、課題解決力、変化への適応力					科目 DP : (4)
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 現代社会が抱える諸課題 (生命・地域・環境) について科学的な視点で理解する。		○		◎	
	2. 課題解決のための方策についてディスカッションで主体的に自分の意見を提案する。		◎	○		
	3. 課題解決のための方策について各グループで協動的にプレゼンテーションする。		○		○	◎
4. 科学的な課題解決について客観的な視点で分析・考察する。				◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ (状況により、遠隔授業を併用することもある)					
授業計画	1. SDGs の目標3 「すべての人に健康と福祉を」について課題を理解する (目標 1) 2. SDGs の目標3 「すべての人に健康と福祉を」について課題解決の方策について考察する (目標 2) 3. SDGs の目標3 「すべての人に健康と福祉を」について課題解決の方策について発表する (目標 3) 4. SDGs の目標4 「質の高い教育をみんなに」について課題を理解する (目標 1) 5. SDGs の目標4 「質の高い教育をみんなに」について課題解決の方策について考察する (目標 2) 6. SDGs の目標4 「質の高い教育をみんなに」について課題解決の方策について発表する (目標 3) 7. SDGs の目標11 「住み続けられるまちづくりを」について課題を理解する (目標 1) 8. SDGs の目標11 「住み続けられるまちづくりを」について課題解決の方策について考察する (目標 2) 9. SDGs の目標11 「住み続けられるまちづくりを」について課題解決の方策について発表する (目標 3) 10. SDGs の目標13 「気候変動に具体的な対策を」について課題を理解する (目標 1) 11. SDGs の目標13 「気候変動に具体的な対策を」について課題解決の方策について考察する (目標 2) 12. SDGs の目標13 「気候変動に具体的な対策を」について課題解決の方策について発表する (目標 3) 13. 各グループの設定テーマについて協議する (目標 3,4) 14. 各グループの設定テーマについて発表する (目標 3,4) 15. 各グループの設定テーマについてのまとめ (目標 1,2,3,4) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、探究活動 (ワークショップ)、協調学習 (グループワーク)					
成績評価基準	①定期試験 (50%) : 知識・理解の測定 ②活動記録・各テーマレポート (20%) : 知識・理解及び関心・意欲の測定 ③各グループのテーマ発表 (20%) : 思考・判断及び表現の測定 ④授業態度・授業への参加度 (10%) : 関心・意欲及び態度の測定					
フィードバックの方法	毎回の授業で課題の確認・活動内容の振り返りについて共有する。					
時間外の学習について	予習：毎回の授業内容・参考文献について情報収集	各回 90 分程度				
	復習：グループ活動記録・各テーマレポートの作成	各回 90 分程度				
教材にかかわる情報	テキスト：プリント配布 参考書：テーマに関する書籍を紹介 参考資料：関連する新聞記事等を配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	くらしと法 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 後期	担当者	原田 剛 (単独)	
ナンバリングコード	JA-L203-000						
卒業要件	選択						
授業のテーマ	憲法をはじめとする法律全般についての基礎を学び、市民社会の一員として様々な問題に法律に基づいた適切な対応できる実践力を身につける。						
授業概要	主に六法（憲法、刑法、民法、商法（会社法）、刑事訴訟法、民事訴訟法）について学び、社会生活で起こりうる具体的な問題例を取り上げ考察する。						
達成目標	学修成果：教養、主体性、変化への適応力					科目 DP : (2)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. 法律の基礎知識を身に付ける。			◎	○		
	2. 社会生活上の諸問題に対してリーガルマインドを持って対応できる。		◎	○		◎	
3. 人権を尊重し社会人として責任ある行動がとれる。		◎				◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ						
授業計画	1. 社会生活と社会規範（目標 1,2,3） 2. 社会規範としての法（目標 1） 3. 憲法①（人権が制限される幸せな社会？）（目標 1,2,3） 4. 憲法②（人権は誰かにもらうもの？）（目標 1,2,3） 5. 憲法③（「私の自由」と「みんなの幸せ」）（目標 1,2,3） 6. 憲法④（三権分立の真の意味）（目標 1,2,3） 7. 憲法⑤（お互い足を引っ張り合う制度）（目標 1,2） 8. 民法・会社法と民事訴訟法①（「殺人契約」も有効？）（目標 1,2） 9. 民法・会社法と民事訴訟法②（「勘違い」はどこまで許される？）（目標 1,2） 10. 民法・会社法と民事訴訟法③（先に買ったのに損をする！）（目標 1,2） 11. 民法・会社法と民事訴訟法④（会社は誰のもの？）（目標 1,2） 12. 民法・会社法と民事訴訟法⑤（「真実の発見」よりも大切なこと）（目標 1,2） 13. 刑法と刑事訴訟法①（罰するべきか、見逃すべきか）（目標 1,2） 14. 刑法と刑事訴訟法②（悪いのは「殺そうとした」から？）（目標 1,2） 15. 刑法と刑事訴訟法③（悩める窃盗罪、刑事訴訟法が主役になる） 1,2,3） ◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション						
成績評価基準	①定期試験（50%）：知識・理解の測定 ②宿題・授業外レポート（30%）：関心・意欲及び知識・理解の測定 ③授業態度・授業への参加度（20%）：関心・意欲及び態度の測定						
フィードバックの方法	宿題・授業外レポートについては、毎回授業の最初に解説します。						
時間外の学習について	予習：事前にテキストを読んで要点をまとめ、疑問点を書き出しておく。 各回 90 分程度 復習：授業内容についてレポートを作成し、提出する。 各回 90 分程度						
教材にかかわる情報	テキスト：『日本一やさしい法律の教科書』品川皓亮【著】佐久間毅【監修】（日本実業出版社） 参考書：『もしも世界に法律がなかったら』本山泰嗣（日本実業出版社）など 参考資料：適宜新聞記事など配布						
担当者からのメッセージ等実務経験について							

科目名	暮らしのなかの科学 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 前期	担当者	三池 秀敏 開地 元典 辻岡 博之 (複数)
ナンバリングコード	JA-L204-000					
卒業要件	選択					
授業のテーマ	自然の理解、自然科学の基本的な法則や現象の理解、そして身近な暮らしの中の現象に自然科学的な視点を養う					
授業概要	人間は長い歴史の中で自然を知るために努力してきた。それは数学、物理学、化学、生物学、地学と広い分野に及ぶが、授業では、事象の数学モデルや自然界の物理法則から始め、身近な自然現象・気象現象・気候変動の理解と対応力を養う。					
達成目標	学修成果：教養、主体性、変化への適応力					科目 DP：(2)
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 人と関わり合いを持つ自然現象を対象にして、自然科学の本質、科学的発想、科学の成果などの知識を身につける。			◎		
	2. 科学的な視点と基本的な法則や概念を理解する。			◎		○
3. 自然科学の知識を習得すると共に、科学的な見方・考え方が身に付くことを目標にする。				◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業等の併用					
授業計画	1. 序論：自然科学とは（目標 1） 2. 21 世紀の課題としての気候変動への対応と時間学（目標 1） 3. 身近な自然現象としての気象現象（地震、津波、竜巻、台風）の理解と対応（目標 2） 4. 物質の成り立ちと貴金属の科学（目標 3） 5. 固体・液体・気体と密度と比重そして水の科学（目標 3） 6. 様々な力とその働き（目標 2） 7. 電気と磁気の働きと色と光そして電池の科学（目標 2） 8. 熱と温度およびエネルギー（目標 2） 9. 光と電磁波そして音の科学（目標 2） 10. 身近な化学（石けん・洗剤そして味の化学）（目標 3） 11. 細胞の構造・体の仕組みと働き（目標 3） 12. 代謝・呼吸・循環と栄養の化学（目標 3） 13. 微生物と発酵の化学（目標 3） 14. 免疫と遺伝とクスリと毒の化学（目標 3） 15. 新しい科学：生きたシステムの科学（目標 1） ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	授業の中で毎回「調査課題」を課し、インターネットや図書館を利用したレポートを作成し印刷して提出させる。次回の講義の最初に何人かセレクトして発表させ、意見交換を行う。					
成績評価基準	①採点・評価 (50%)：毎回の調査課題のレポートを A, B, C, D の 4 段階で採点・評価 調査レポートの量（字数）と質（課題への回答的的確性） ②定期試験 (50%)：期末試験の点数 (100 点満点)					
フィードバックの方法	毎回の課題に対するレポートの評価を A, B, C, D の 4 段階で評価し、コメントを付けて返す。 課題レポートの発表者に対するコメント。					
時間外の学習について	予習：参考書や参考となるインターネット上のテキスト（北海道大学オープンコースウェア等）の閲覧 (90 分) 復習：返却されたレポートをブラッシュアップし、改訂版を提出させる。(90 分) 改訂版で最終的に評価する。					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：参考書：「楽しく学ぶ 暮らしの化学」（藤瀬守、化学同人、2021 年） 参考資料等： https://ocw.hokudai.ac.jp/lecture/scienceliteracyl-2009 （北海道大学オープンコースウェア：ゼロから始める科学力）					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	大学は自ら疑問を持ち、自ら調査し、自分なりの理解を得る学びの場です。新図書館やインターネットを活用して、調査しレポートを作成するコツを身に付けましょう。また、自分なりの自然科学の研究課題を設定し「研究」して下さい。					

科目名	英語コミュニケーション I (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 前期	担当者	植村 隆 (実務経験)
ナンバリングコード	JA-L111-000					
卒業要件	選択					
授業のテーマ	英語 コミュニケーション					
授業概要	基礎的な英語コミュニケーションスキルを学びながら、英語活動に楽しく前向きに参加することを目指す。					
達成目標	学修成果：教養、主体性、コミュニケーション能力、変化への適応力	科目 DP : (2)				
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
		1. 基礎的な英語表現を習得し、英語を使う自信をつける。		◎	○	
		2. 自分のことを英語で話すことが出来るようになる。	○	◎	○	
3. 効果的に他の人と英語でコミュニケーションする方法を学ぶ。		◎	○	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業（同時双方向）の併用					
授業計画	1. Introduction and Classroom English (目標 1,2,3) 2. Greetings and Active Listening (目標 1,2,3) 3. Interviewing Classmates and Friends (目標 1,2,3) 4. Talking about Classmates and Friends (目標 1,2,3) 5. Thinking about Happiness (目標 1,2,3) 6. Talking about Hobbies (目標 1,2,3) 7. Talking about Experiences (目標 1,2,3) 8. Talking about Future Dreams (目標 1,2,3) 9. Study Strategies (目標 1,2,3) 10. Giving Reasons (目標 1,2,3) 11. Agreeing and Disagreeing (目標 1,2,3) 12. Non-verbal Message and English Communication I (目標 1,2,3) 13. Non-verbal Message and English Communication II (目標 1,2,3) 14. Presentation I (目標 1,2,3) 15. Presentation II (目標 1,2,3)					
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション等					
成績評価基準	①宿題・授業外レポート (40%)：知識・理解・態度・意欲・思考・判断 ②受講者の発表（プレゼン）(30%)：技能・表現・知識・理解・意欲 ③授業態度・授業への参加度 (30%)：態度・意欲					
フィードバックの方法	レポート提出・プレゼン後に個別還元指導					
時間外の学習について	予習：指定された Lesson について、事前に内容を確認しておく。各回 90 分程度 復習：既習の Lesson の目標表現が円滑に使用できるように反復的に学習をする。各回 90 分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：適宜配布 参考書：適宜紹介予定 参考資料：適宜配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	・英語が苦手な学生さんも、必要性を感じていたり、関心を少しでも持っていれば歓迎します。まずはアクティブ・ラーニングの中で間違えてもいいので恐れずに英語を使ってみましょう。 ・対面授業を基本としますが、状況によって同時双方向型の遠隔授業を実施する場合があります。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。 ・国際ビジネス経験：企業現場で体得した効果的な英語コミュニケーションの方法を教育内容に活かしていきます。					

科目名	英語コミュニケーションⅡ (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 後期	担当者	植村 隆 (実務経験)	
ナンバリングコード	JA-L112-000						
卒業要件	選択						
授業のテーマ	英語 コミュニケーション						
授業概要	自分自身や身の回りのことについて基本的な英語で表現することができるようにする。						
達成目標	学修成果：教養、主体性、コミュニケーション能力、変化への適応力					科目 DP : (2)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. 身近な話題について英語で表現できるよう必要な語彙・表現を身に付ける。			◎	○		
	2. 対話を通して、英語で積極的に話したり聞いたりする態度を身に付けることができる。		○	◎	○		
3. 効果的に他の人と英語でコミュニケーションする方法を学ぶ。			◎	○	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業（同時双方向）の併用						
授業計画	1. It's nice to meet you. (目標 1,2,3) 2. Who are they talking about? (目標 1,2,3) 3. When do you start? (目標 1,2,3) 4. Where does this go? (目標 1,2,3) 5. How do I get there? (目標 1,2,3) 6. What happened? (目標 1,2,3) 7. I'd love that job. (目標 1,2,3) 8. What's playing? (目標 1,2,3) 9. What are you going to do? (目標 1,2,3) 10. How much is this? (目標 1,2,3) 11. How do you make it? (目標 1,2,3) 12. Listen to the music. (目標 1,2,3) 13. Emphasizing Key Points (目標 1,2,3) 14. Presentation I (目標 1,2,3) 15. Presentation II (目標 1,2,3)						
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション等						
成績評価基準	①宿題・授業外レポート (40%)：知識・理解・態度・意欲・思考・判断 ②受講者の発表（プレゼン）(30%)：技能・表現・知識・理解・意欲 ③授業態度・授業への参加度 (30%)：態度・意欲						
フィードバックの方法	レポート提出・プレゼン後に個別還元指導						
時間外の学習について	予習：指定された Lesson について、事前に内容を確認しておく。各回 90 分程度 復習：既習の Lesson の目標表現が円滑に使用できるように反復的に学習をする。各回 90 分程度						
教材にかかわる情報	テキスト：(書名) 『English Firsthand (5th Edition) Level 1 Student Book with MyMobileWorld』, (著者名) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown (出版社) Pearson, (出版年) 2018 参考書：適宜紹介予定 参考資料：適宜配布						
担当者からのメッセージ等実務経験について	・日常的な内容を主体としたレッスンですが、本コースでは、少しずつ英語で学習内容を理解する取り組みを行い、コミュニケーションにつなげていきます。アクティブ・ラーニングの中で実践的な英語を学んでいきましょう。 ・対面授業を基本としますが、状況によって同時双方向型の遠隔授業を実施する場合があります。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。 ・国際ビジネス経験：企業現場で体得した効果的な英語コミュニケーションの方法を教育内容に活かしていきます。						

科目名	日本国憲法 (2単位)		講義	保育学科	2年 後期	担当者	香川 智弘 (単独)
ナンバリングコード	JC-L208-110						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択	幼稚園教諭	必修	
免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園)							
教科目	教養科目(保育士)						
系列	教養科目						
授業のテーマ	広い見識 主体性 問題解決能力 社会人としての教養(態度・志向性、汎用的能力、創造的思考力)						
授業概要	平和国家・民主国家を目指す日本国憲法の基本理念・国民中心主義、それを具体化する国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則を学ぶ。その上で人権規定を中心に憲法の諸規定を学ぶ。さらに新しい人権についても学び、今日の社会の動向を知る。						
達成目標						科目DP: (2)	
						DP番号	(1) (2) (3) (4)
	1. 市民としての法感覚を養う。					○	
	2. 憲法の基本理念を知る。						◎
	3. 人権感覚を養う。						◎
4. 憲法的視点から今日の社会を理解する。					○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ						
授業計画	1. 日本国民の要件 国籍法(目標 1,3,4) 2. 日本国憲法の目的、基本理念、基本原則①国民主権(目標 1,2) 3. 日本国憲法の基本原則②平和主義、基本的人権の尊重(目標 1,2,3) 4. 日本国憲法の人権規定①法の下での平等 平等とは、少年法、男女雇用機会均等法(目標 1,3,4) 5. 日本国憲法の人権規定①法の下での平等 尊属殺重罰事件(目標 1,3,4) 6. 日本国憲法の人権規定②精神的自由権 内心の自由、信教の自由、学問の自由(目標 1,3,4) 7. 日本国憲法の人権規定②精神的自由権 表現の自由(目標 1,3,4) 8. 日本国憲法の人権規定③身体的自由権(目標 1,3,4) 9. 日本国憲法の人権規定④経済的自由権(目標 1,3,4) 10. 日本国憲法の人権規定⑤参政権(目標 1,3,4) 11. 日本国憲法の人権規定⑥生存権(目標 1,3,4) 12. 新しい人権①生命に対する権利(目標 1,3,4) 13. 新しい人権②プライバシーの権利(目標 1,3,4) 14. 国民主権と統治機構①立法権、行政権(目標 1,2,4) 15. 国民主権と統治機構②司法権、地方自治(目標 1,2,4) ◎定期試験						
アクティブ・ラーニング							
成績評価基準	評価の方法: 試験(80%) 授業態度(20%) 評価の基準: ○筆記試験 *知識・理解の定着度を測定 ・教科書に載っている知識を扱った問題に回答できる ・応用レベルの問題に回答できる ○授業態度 *関心・意欲を測定 ・積極的に授業に参加し、発言する						
フィードバックの方法	理解度を確認するため小テストを行い、採点して返却する。						
時間外の学習について	予習: テキストを読んで理解する。90分程度 復習: 学習内容をノートにまとめる。90分程度						
教材にかかわる情報	テキスト: 香川智弘「憲法講義」 参考書: 参考資料: プリントを配布する。						
担当者からのメッセージ等 実務経験について	平素からニュースを確認し、社会の動きに興味・関心をもって下さい。						

科目名	情報処理 (2単位)	講義	保育学科	1年 前期	担当者	山本 瑞恵 辻岡 博之
ナンバリングコード	JC-L102-110					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択	幼稚園教諭	必修
免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園)						
教科目	教養科目(保育士)					
系列	教養科目					
授業のテーマ	保育業務の簡素化を図るため、情報化社会で必要となる情報リテラシー、倫理、セキュリティについて習得する(汎用的能力)					
授業概要	電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、基本的なアプリケーションを使った文書作成(Word)、表計算(Excel)、プレゼンテーション(PowerPoint)などの演習を行う					
達成目標						科目DP:(2)
						DP番号
	1. USBメモリの取り扱い及び電子メールでのやりとり、添付ファイルの送付、添付ファイルの保存などができる					(1) (2) (3) (4)
	2. 情報を取り扱う際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる					◎ ○ ○ ○
3. 文書作成、表計算、プレゼンテーションを理解し、活用できる					○ ○ ○ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業等の併用					
授業計画	1. 機器の取り扱い(USBメモリの取り扱い、Windowsの基本操作・基礎知識・インターネット接続と電子メールの設定)(目標1) 2. 情報セキュリティ、情報検索の活用、情報倫理(目標2) 3. 文書作成(Wordの基本操作)、簡単な描画作成(目標3) 4. 文書作成(書式、図・表の挿入)(目標3) 5. 複雑な文書作成その1(目標3) 6. 複雑な文書作成その2 Word課題(目標3) 7. 表計算(作表と簡単な計算、Excelの基本操作)(目標3) 8. 表計算(雛型シートの作成及びその利用)(目標3) 9. 表計算(データベースの作成、関数の利用、データ抽出)(目標3) 10. 表計算(グラフの作成、複雑な関数の利用) Excel課題(目標3) 11. プレゼンテーション(PowerPointの基本操作)(目標3) 12. プレゼンテーション(スライド作成、アニメーションの設定、動画・音楽の挿入)(目標3) 13. プレゼンテーション PowerPoint課題(目標3) 14. プレゼンテーション(発表その1 質疑応答)(目標3) 15. プレゼンテーション(発表その2 質疑応答)(目標3)					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーションと質疑応答(学生主体)を行う					
成績評価基準	評価の方法:毎回の宿題レポート(印刷物と添付ファイルの提出)(70%)プレゼンテーション(30%) 評価の基準:○宿題レポート *知識・理解を測定 ・授業内容を理解し、アプリケーションを使用できる ○授業でのプレゼンテーション *知識・理解、関心・意欲を測定 ・アプリケーションを活用し、積極的なプレゼンテーションを実施できる					
フィードバックの方法	プレゼンテーションは全員が行う。各発表者に対しコメントを加える。					
時間外の学習について	予習:次の授業範囲を確認し、テキスト及び授業資料に目を通しておく。(90分) 復習:演習課題結果の評価を通して授業内容の復習を行う。(90分)					
教材にかかわる情報	テキスト:「保育者のためのパソコン講座 windows10/8.1/7 Office2010/2013/2016 対応版」 阿部正平・阿部和子・二宮祐子 萌文書林 参考書:適宜授業内で紹介する。 参考資料:その他添付ファイルで個別に送信及び授業内で印刷物を配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	4GB以上のUSBメモリを用意し、教科書・筆記用具と一緒に授業に毎回持ってくる					

科目名	文書表現基礎 (2単位)	講義	保育学科	1年 前期	担当者	久保田 京子 (単独)			
ナンバリングコード	JC-L103-010								
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択	幼稚園教諭				
教科目	教養科目(保育士)								
系列	教養科目								
授業のテーマ	大学生生活・社会生活及び、就職活動に必要な文書作成の基礎、保育現場の業務に直結する文書表現・作成の基礎(汎用的能力)、修得した知識・文書作成技術の活用と応用								
授業概要	レポートや保育現場で必要となる文書表現全般の基本知識やルール、マナーなどについて、演習を通して実践的に基礎を身につける。								
達成目標	学修成果：主体的に学び続ける意欲、協調的な態度、教養、豊かな感性と表現力、課題解決能力				科目DP：(2)				
					DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.用字・用語、慣用的表現、敬語など文章表現の基礎知識と教養を身につける。					○	◎		
	2.依頼状や礼状、電子メール、レポート等の作成など、大学生生活に必要な文書作成の基礎を身につける。					◎	◎		
	3.通知文・案内文・照会文、復命書等職業生活に必要な文書作成の基礎を身につける。						◎	○	
	4.自己紹介文・エントリーシート作成の基本など、就職活動に必要な表現の基礎を身につける。						◎		○
5.保育実習や保育業務に関する文書作成の基礎を習得する。							◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ(状況により遠隔授業を併用することもある)								
授業計画	<p>1 文の構成、文体、仮名づかい、記号や符号、送り仮名、慣用句等(目標1)</p> <p>2 助詞の使い方、文のねじれとわかりやすい文、事実と意見・感想と考察の区別、5Wと1H、要約(目標1)</p> <p>3 敬語の基本ルールと使い方(目標1)</p> <p>4 挨拶文や礼状の書き方と、社交文書に用いる敬語の基礎(目標2)</p> <p>5 電子メールのルールとマナー(目標2)</p> <p>6 レポートや論文の書き方の基本(目標1、目標2)</p> <p>7 文書の書き方(1)文書の種類と基本書式、通知文、案内文の作成(目標2、目標3)</p> <p>8 文書の書き方(2)依頼文、照会文、詫言状(目標3)</p> <p>9 文書の書き方(3)電話メモ、会議録、復命書(目標3)</p> <p>10 履歴書 自己紹介文、エントリーシート等の書き方の基本(目標4)</p> <p>11 保育実習や業務に係る文書の書き方の基本(1)書類の送付状や礼状の実践練習(目標5)</p> <p>12 保育実習や業務に係る文書の書き方の基本(2)記録の役割と適切な書き方(目標5)</p> <p>13 保育実習や業務に係る文書の書き方の基本(3)わかりやすい記録や報告(目標5)</p> <p>14 保育実習や業務に係る文書の書き方の基本(4)保育等の記録の留意点(目標5)</p> <p>15 文書表現基礎の総まとめ(目標1～5)</p> <p>※ 毎回、講義のはじめに、子どもや保護者に「紹介したい絵本」を取り上げ、わかりやすく紹介する文章を書き、発表する。全講義終了時に「紹介したい絵本」集をつくる。</p> <p>※ 授業プリント・演習をもとに、「保育現場に必要な文章力」(冊子)を作成し、就職後の活用に資する。</p>								
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ								
成績評価基準	<p>評価の方法：レポート・提出物(30%) 復習テスト(30%) 授業態度・授業への参加度(30%) 発表(10%)</p> <p>評価の基準：○レポート・提出物、復習テスト *知識・理解の定着度を測定</p> <p>・文書作成の基礎知識が身につく、授業で習得した知識の活用ができる。</p> <p>○授業態度・授業への参加度 *関心・意欲を測定</p> <p>・学習活動・演習やグループワーク等に主体的に参加する。</p> <p>○発表 *関心・意欲、技能・表現を測定</p> <p>・準備をし、わかりやすく発表することができる。</p>								
フィードバックの方法	毎時間の提出物・復習テスト等をもとに、各自の課題や良さを添削する。授業プリントの卒業後の活用も伝える。								
時間外の学習について	<p>予習：テキスト練習問題や配付プリントの事前学習(各回60分程度)</p> <p>復習：授業後の配布プリント演習の実施。(各回60分程度) 配布プリントはファイルに整理し、授業時には必携のこと。</p>								
教材にかかわる情報	<p>テキスト：「ビジネス文書実務 改訂版」石井典子・三村善美著 早稲田教育出版</p> <p>参考書：</p> <p>参考資料等：毎時、授業プリント配布。</p>								
担当者からのメッセージ等実務経験について	保育に携わる職業人の第一歩として、文章表現によるコミュニケーション力を磨き、様々な文書作成の基礎を身につけよう。授業プリントはポートフォリオとして振り返りに使い、卒業後も活用しよう。								

科目名	進路研究 (2単位)		講義	保育学科	2年 前後期	担当者	永田 実穂 他			
ナンバリングコード	JC-L207-010									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択	幼稚園教諭					
教科目	教養科目(保育士)									
系 列	教養科目									
授業のテーマ	自らの人生や進路について考え、自己実現に向けて主体的に取り組む(態度・志向性、汎用的能力、創造的思考力)									
授業概要	進路決定に至るまでに、自らが求める職業について考え研究する。また、社会人として必要なマナーや事柄について理解し、就職のために必要な事柄について段階を踏みながら演習を繰り返し、実践力をつけていく。									
達成目標						科目 DP: (2)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 自己を見つめ正しく認識する。					◎	○			
	2. 自分自身の生き方を考え、進路について主体的に考える力を身につける。					◎	○			
	3. 保育者の職務内容について理解する。						◎	◎		
	4. 履歴書作成、就職支援講座を通して実践的な進路開拓の力を身につける。						◎			○
5. 社会人として必要な教養やマナー、コミュニケーション力を身につける。					○				◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ									
授業計画	1. 働くということを考える(ライフプランニング)(目標 1,2) 2. 社会が求める資質・能力、本学のディプロマ・ポリシーを考える(目標 1,2,3,5) 3. 進路希望種別の情報を収集する(公立・幼稚園・保育所・認定子ども園・施設・一般)(目標 2,3,4) 4. 就職支援講座①(就職活動のマナーについて)(目標 2,4,5) 5. 求人票の見方、および自己分析、自己理解の上での自己PR、履歴書の作成(目標 1,2,3,4) 6. 就職試験に必要な一般教養、時事問題、論作文の書き方(目標 1,2,3,4) 7. 就職活動に必要な手紙、添え状やメールの書き方(目標 4,5) 8. 話し方講座(面接や人前での言葉遣い、話し方についての講義、模擬面接)(目標 4,5) 9. 特別講義①社会が求める人材について(目標 1,2) 10. 自己評価、自己分析を行い進路希望の明確化を図る。夏休み中の就職活動について(目標 1,2,3,4) 11. 社会人として必要な一般教養や手紙、電話の応対について(目標 4,5) 12. 世代に応じたコミュニケーション力を身につける(目標 2.5) 13. 特別講義②保育職に関する講義(目標 1,2,3,4,5) 14. 社会人(保育職・一般)に必要な倫理観とマナーについて(目標 1.2.3.5.) 15. まとめ(自己理解と社会人としての心構え)(目標 1,2,3,5)									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、ロールプレイ									
成績評価基準	評価の方法: 授業への取り組み(20%) 特別講義等レポート(25%) 小テスト(漢字、用語、時事問題、一般教養等)(40%) 添え状、論作文等(15%) 評価の基準: ○小テスト・履歴書作成・手紙の書き方等 *知識・理解の定着度 ・社会人として必要な一般常識や教養などの問題に回答できる。論作文を書くことができる。 ・履歴書の書き方や社会人として必要なメールや手紙を書くことができる。 ○授業への取り組み *関心・意欲、態度、思考・判断の測定 ・積極的にグループワークを行うことができる。 ・ロールプレイで適切な対応ができる。 ○レポート *思考・判断、技能表現の測定 ・特別講義等を聴いて、自分の将来について真摯に向き合い主体的に考え書くことができる。									
フィードバックの方法	レポートの添削や小テストを返却し、コメントの記入や個人指導を行う									
時間外の学習について	予習: ドリルブックを行う(各回90分程度) 復習: 小テストの復習および、講義内容を整理し実践できるようにする。(各回90分程度)									
教材にかかわる情報	テキスト: 就職ガイドブック 一般常識問題ドリルブック 参考書: 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領									
担当者からのメッセージ等実務経験について	自分の将来について真剣に考え主体的に取り組みましょう。									

科目名	英語コミュニケーション (2単位)		演習	保育学科	1年 後期	担当 者	ダグラス・パーキン (単独)		
ナンバリングコード	JC-L111-110								
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭		必修		
免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園)									
教科目	教養科目(保育士)								
系列	教養科目								
授業のテーマ	英語 コミュニケーション 保育士に必要な英語に重点を置いて学ぶ(汎用的能力)								
授業概要	将来英語を教えるのに必要な技術を学ぶと共に個々の英語能力も高める								
達成目標					科目DP: (2)				
					DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 個々の英語力を高め、自信をもって英語を使う。					◎			○
	2. 異なる西洋の歌を用いて、外国の文化をよりよく理解し、テーマに沿って英語で表現する。					◎			○
	3. 英語を使用して他者の前で話すスキルを向上させる。					◎			○
4. 外国音楽の鑑賞を通して、自らが感じたことを英語で表現する。					◎			○	
履修条件・注意事項	気持ちを楽に持って、英語を学ぶことを楽しんでほしい。ノートと辞書は必ず授業に持参すること。 授業の実施方法: ②面接授業と遠隔授業(同時双方向)の併用								
授業計画	1. Course Introduction + Student/Teacher Introductions + Example Introduction Lesson (目標 1,2,3) 2. Tell Me More Language Software + Review Introduction Lesson + Student Introduction Lessons (目標 1,2,3,4) 3. Classroom English + Student Lessons (目標 1,2,3,4) 4. ABCs + Student Lessons (目標 1,2,3,4) 5. Body Parts + Student Lessons (目標 1,2,3,4) 6. Animals + Student Lessons (目標 1,2,3,4) 7. Emotions + Student Lessons (目標 1,2,3,4) 8. Numbers + Student Lessons (目標 1,2,3,4) 9. Colors + Student Lessons (目標 1,2,3,4) 10. Fruits + Student Lessons (目標 1,2,3,4) 11. Body Parts + Student Lessons (目標 1,2,3,4) 12. Holidays /Special Days + Student Lessons (目標 1,2,3,4) 13. Pair (Team) Student Teaching Tests Week 1 (目標 4) 14. Pair (Team) Student Teaching Tests Week 2 (目標 4) 15. Final Class - Review Course (目標 1)								
アクティブ・ラーニング	Students are active throughout the course by using Question Crazy Cards to talk to faculty members in English, using English learning software to practice at their own pace, participating in and teaching mini lessons, teaching a final team teaching 25 minute lesson to the class, and also writing reflections at the end of the course in English. グループワーク								
成績評価基準	評価の方法: 授業態度(10%)、Tell Me More(PCソフト)(10%)、Question Crazy Cards(10%)、 各授業終わりの模擬授業(In Class Teaching)(10%)、学期末に配られるReflections(5%)、最終試験(55%) 評価の基準: ○授業態度 *関心・意欲を測定 ・積極的に発言する、グループ・ペアワーク等に積極的に取り組む。 ○Tell Me More(PCソフト) *知識・理解・技能表現を測定 ・PCソフトの学習・理解、表現を理解し、運用できる。 ○Question Crazy Cards *関心・意欲・技能表現を測定 ・教職員に英語で質問し、会話することが出来る。 ○各授業終わりの模擬授業(In Class Teaching) *関心・意欲、思考・判断を測定 ・英語で計画を立て、英語でプレゼンテーションを行う。 ○学期末に配られるReflections *関心・意欲を測定 ・自分自身の取り組みを内省し、課題を見つける。 ○最終試験 *知識・理解の定着度を測定 ・英語表現を理解し、運用できる。								
フィードバックの方法	発表に対して、学生相互に気づきを共有し、さらに教員から学生個々に対する指導・助言を行う。 Tell Me Moreに対する指導・評価は、学生個々の進度に応じて適宜行う。								
時間外の学習について	予習: 前回の授業の復習を確認するとともに、授業で出された課題を実施する。(90分) 復習: 配られたレッスン計画を利用して授業を復習。その日習った単語を全て調べ覚える。(90分)								
教材にかかわる情報	テキスト: None needed - Materials Provided by instructor 参考書: None needed. 参考資料: Questions Crazy Cards, and Tell Me More Log Sheets								
担当者からのメッセージ等 実務経験について	It is recommended that all students regardless of their English backgrounds should come with an open mind and learn to enjoy English so they may pass the same enjoyment to their students in the future.								

科目名	体育（講義） （1単位）		講義	保育学科	2年 後期	担当 者	原井 進 （単独）			
ナンバリングコード	JC-L221-110									
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修				
免許法施行規則第66条の6に定める科目（幼稚園）										
教科目	教養科目（保育士）									
系 列	教養科目									
授業のテーマ	スポーツの基本的知識と健康寿命の延伸に向けた基礎知識を獲得する。また保育者として、ケガや熱中症、救急法を学習し、幼児期の運動の重要性を理解する。（汎用的能力）									
授業概要	現代社会には、様々な健康問題が存在している。こうした問題に対して、自己解決するための手段を知ることは重要である。本授業では、受講生が今後 QOL の充実を実現するための基礎的な健康と運動に関する知識を学ぶことを目的とする。									
達成目標						科目 DP：（2）				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. スポーツの概要を理解する					○	◎			
	2. 現代の病気・けがを理解する					○	◎	○	○	
	3. 救急法を理解する					○	◎	○	○	
	4. 生活習慣の問題を理解する					○	◎	○	○	
5. 幼児期の運動習慣を理解する					○	◎	◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ									
授業計画	1. スポーツの歴史（目標 1） 2. スポーツに関する基礎知識（目標 1） 3. 現代の病気・けがの解説（現状理解）（目標 2） 4. 現代の病気・けがの解説（熱中症、突然死、事故防止）（目標 2） 5. 救急法（AED、心肺蘇生、止血法）（目標 3） 6. 救急法（救命の連鎖）（目標 3） 7. 現代の健康問題（生活習慣病）（目標 4） 8. 現代の健康問題（生涯スポーツ）（目標 4） 9. 現代の健康問題（健康寿命の延伸）（目標 4） 10. 幼児期の運動理解（幼児期における発達の特性）（目標 5） 11. 幼児期の運動理解（幼児期における身体活動の課題）（目標 5） 12. 幼児期の運動理解（幼児期における運動の意義）（目標 5） 13. 幼児期の運動理解（幼児期における運動の配慮事項）（目標 5） 14. 子どもの日常生活からみる運動習慣（保育者の取組）（目標 5） 15. 子どもの日常生活からみる運動習慣（家庭及び地域の取組）（目標 5） 筆記試験									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①授業への参加・意欲（20%） ②テスト（80%） 評価の基準：①授業への意欲：参加・発言、授業レポートによって授業内容の理解度を評価する。 ②テスト：筆記試験を通じて授業の理解度を評価する。									
フィードバックの方法	授業中に前回学んだ知識を復習する時間を確保する。									
時間外の学習について	予習：適宜指示する（45分） 復習：授業の課題を实践する（45分）									
教材にかかわる情報	テキスト：幼児期運動指針ガイドブック、文部科学省、株式会社サンライフ企画 参考書： 参考資料：「JASP-ACP アクティブ チャイルド プログラム」、公益財団法人日本スポーツ協会									
担当者からのメッセージ等実務経験について	健康・安全に配慮するとともに、子どもを運動好きにするための知識を保育の現場に生かしてほしい。									

科目名	体育(実技) (1単位)		実技	保育学科	1年 後期	担当 者	吉野 信朗 (単独)			
ナンバリングコード	JC-LI21-110									
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修				
免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園)										
教科目	教養科目(保育士)									
系列	教養科目									
授業のテーマ	スポーツや表現活動を通じて、協調性やコミュニケーション能力を身に付ける(汎用的能力)									
授業概要	球技では、基礎技能とコミュニケーション活動を中心に、ゲームを円滑に進められるように学習する。表現運動では、身体を通じた自己表現することや空間を活かした表現をする。また互いに鑑賞し、他者評価し相互理解を行う。ボウリングは国体にも採用されており、生涯スポーツとしても人気のスポーツである。総じて様々なスポーツの経験を得ることを目標とする。									
達成目標						科目DP: (2)				
						DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 基礎的なスポーツマナーを理解する						○	◎	○	○
	2. バレーボールの理解と技術の習得						○	○		○
	3. 卓球の理解と技術の習得						○	○		○
	4. バドミントンの理解と技術の習得						○	○		○
5. ダンス・体操の理解と技術の習得						○	◎	◎	◎	
履修条件・注意事項	運動のできる服装で参加すること。 授業の実施方法: ①面接授業のみ									
授業計画	1. スポーツをする上での身なりと基礎的なスポーツマナー (目標 1) 2. バレーボールの基礎技能(パス・サーブ) (目標 2) 3. バレーボールの応用技能(フォーメーション) (目標 2) 4. バレーボールのゲーム1 基礎 (目標 2) 5. バレーボールのゲーム2 試合 (目標 2) 6. 卓球の基礎技能(サーブ・ラリー) (目標 3) 7. 卓球のゲーム1 基礎 (目標 3) 8. 卓球のゲーム2 試合 (目標 3) 9. バドミントンの基礎技能(サーブ・ラリー) (目標 4) 10. バドミントンのゲーム1 基礎 (目標 4) 11. バドミントンのゲーム2 試合 (目標 4) 12. 体操・身体表現者としてのダンス (目標 5) 13. 創作ダンス(ダンス作成) (目標 5) 14. 創作ダンス(ダンス練習) (目標 5) 15. 創作ダンス(発表) (目標 5)									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ									
成績評価基準	評価の方法: 授業への参加(20%) 授業中の課題(60%) レポート(20%) 評価の基準: ○授業への参加 *関心・意欲を測定 ・スポーツへの取り組みを重視する。 ○授業中の課題 *関心・意欲、思考・判断を測定 ・グループ学習や授業中の課題解決への取り組み及びその到達度を評価する。 ○レポート *知識・理解、思考・判断を測定 ・テーマに対する論述から授業内容の理解度を評価する。									
フィードバックの方法	授業中に前回学んだ技能を復習する時間を確保する。									
時間外の学習について	予習: ルール学習(各回15分程度) 復習: 観る・する・調べるスポーツを楽しむ(各回45分程度)									
教材にかかわる情報	テキスト: 必要に応じて適宜配布する。 参考書: 参考資料:									
担当者からのメッセージ等実務経験について	人数や気候によっては、一部内容を変更することがあります。									